

# ロータリー財団部会

アドバイザー・パストガバナー	渡邊 脩助 (三 島)
リーダー・次期ロータリー財団委員会副委員長	和久田健司 (浜 松)
サブリーダー・次期奨学金委員長	中込 徹 (甲 府)
サブリーダー・次期補助金委員長	梶原 信行 (河口湖)
サブリーダー・次期年次寄付・恒久基金委員長	池谷 貞悟 (浜 松)
サブリーダー・次期研究グループ交換委員長	大村 義之 (甲府南)
サブリーダー・次期ロータリー財団学友委員長	網倉 義久 (石 和)

報告者名：和久田健司（次期ロータリー財団委員会副委員長）

## 開会挨拶（R財団委員会委員長 渡邊脩助）

ロータリー財団の活動はロータリーの活動の重要な部分を担っている。しかも財団寄付があって始めてロータリー財団の活動が出来る仕組みである。ロータリー財団の活動内容を先ずは良く理解して欲しい。財団寄付の目標をUS \$ 100に引き下げたので全員が目標を全うし、全ての84のクラブが100%達成の表彰を受ける様にして欲しい。次年度DDFは50%になり財団の活動も厳しくなる。大変だが宜しくお願いする。



## 議事進行（R財団委員会副委員長 和久田健司）

配布した資料は添付のロータリー財団と左肩に記載のある資料。

ロータリー財団の活動は教育的プログラムと人道的プログラムの2本柱で成り立っている。国際親善奨学金と研究グループ交換の事業が教育的プログラムを構成しており、またマッチング・グラントと地区補助金の事業が人道的プログラムを構成している。当地区と世界のロータリーとが繋がっているのがロータリー財団のプログラムでロータリーの大きな柱である。

## 年次寄付・恒久基金の説明（年次寄付・恒久基金小委員会委員長 池谷貞悟）

添付資料に沿って寄付金の流れの仕組み、配分、行方の説明を行なった。次年度は一人当たりの寄付目標をUS \$ 120からUS \$ 100に減額したが、地区の全員が少なくともUS \$ 100は寄付して欲しいと言う意味で、寄付金額を減らしても良いと言う事ではない。要は全員にUS \$ 100を最低額としてより多くの寄付をお願いしたい。

## 国際親善奨学金の説明（奨学金小委員会委員長 中込徹）

添付資料奨学金の内容を説明した。過去この制度を利用し2620地区より多くの若者が海外の大学で学んで来ている。1学年度の国際親善奨学生の場合の支給額はUS \$ 26,000、マルチ・イヤーの場合の支給額は年間US \$ 13,000。受験資格は大学2年終了。2006 - 2007年度の募集人員は7名。

#### 研究グループ交換の説明（研究グループ交換小委員会委員長 大村義之）

添付資料の内容を説明した。2006 - 2007 年度の交換相手は第 4430 地区ブラジル国サンパウロ市ベルダーテ地区。ブラジルチームの受入期間は 10 月 28 日（土）～ 11 月 26 日（日）、当地区のチームの派遣期間は来年 5 月 1 日～ 5 月 31 日。先行する受入の計画を説明し協力をお願いした。

#### 補助金及びマッチング・グラントの説明（補助金小委員会委員長 梶原信行）

申請の為のプロジェクトの要件、プロジェクトの募集、補助金を受けたクラブの義務、補助金支給額、補助金の予算、申請及び選考方法に就いて説明した。マッチング・グラントに就いてはプロジェクトの要件、2005 - 2006 年度の当地区の実績、申請書フォーマットの入手方法に就いて説明した。

#### 山静学友会の説明（財団学友小委員会委員長 網倉義久）

添付資料を配付し学友会の性格、活動の内容を説明した。卓話に学友を呼んで欲しい旨のお願いをした。

#### 質問と回答及び要望

- ① 税控除が適用される寄付金額のハードルを下げて、少額寄付でも税控除が受けられる様にして欲しい。  
回答：今までもその方向で国に働き掛けて来ている。今は 20 万円以上が対象であるが、以前は 30 万円以上でなければ控除を受けられなかった。
- ② 奨学生の選考において親の収入が考慮されているか。  
回答：申請書類を受け付けた段階で考慮されているが、留学先の学費もまちまちで奨学金の規模で留学に必要な費用が全て賄えられると言う具合でも無いことを理解してほしい。
- ③ 補助金を弾力的に運用出来る様にし災害援助など突発的な出来事にも使える様にして欲しい。
- ④ 寄付金の費用対効果はどうか。  
回答：教育的プログラム、人道的プログラムは直ぐに数値で計れる成果を求める性格のものではなく、10 年先、20 年先、30 年先の長きに亙り教育的あるいは人道的成果や貢献を目指している。